

# 令和7年度 第2回 鹿児島県立図書館協議会の開催結果

## 1 開催日時

令和8年3月12日（木） 午前10時から午前11時30分まで

## 2 開催場所

鹿児島県立図書館 第1研修室（オンラインにて開催）

## 3 出席委員

藤崎 隆博 委員, 里光 和恵 委員, 田淵 千春 委員, 岡田 祐介 委員, 下豊留 佳奈 委員

宮内 基希 委員, 須部 貴之 委員

## 4 公開・非公開の別

公開

## 5 傍聴者

なし

## 6 協議

- (1) 令和8年度主要事業の運営計画（案）について
- (2) その他

## 7 審議結果等の概要

### (1) 令和8年度主要事業の運営計画（案）について

#### ア 図書館情報システムの更新に係る新機能等について

令和8年度中に、図書館情報システムの更新を予定しているとのことだが、更新前と比べてどのような機能が加わるのか。

→ 令和8年12月より両館で新図書館情報システムを導入予定であり、インターネットを活用した利用者カード作成の機能や館外貸出サービス（相互貸借）を利用することができる機能を導入する予定である。

また、「鹿児島県読書バリアフリー計画」の策定に基づき、視覚障害者等の読書環境の整備・推進のためのシステム構築を検討している。

---

## イ 電子書籍サービスについて

昨年末に開始された電子書籍サービスについて、利便性の向上を実感している一方で、他自治体の図書館では導入時にマスコミ等で大きく取り上げられ、利用方法の周知も行われていた記憶がある。県立図書館においては、ホームページ以外の手段（報道発表など）でサービス開始の周知・広報を行ったのか、その状況について確認したい。

→ HP を活用した情報発信に加え、館内にてリーフレットを配布し周知を図るなど行った。

電子書籍サービスについて、12月の開始以降の利用状況を教えてほしい。

また、どのような種類の電子書籍が多く利用されているのか。また、利用者の年齢層や居住地など、利用者の傾向について把握していれば教えてほしい。

→ 12月の閲覧件数は173件、1月は98件、2月は75件で、3か月合計（2月末時点）で346件となっている。

利用されている書籍の傾向としては、当館では、電子書籍を実用書・専門書を中心に揃えたことから、これらの書籍の利用が多い。

一方で、利用者の年齢層や居住地などの傾向については、現時点では統計的な把握は行っていない。

---

## ウ 椋鳩十生誕120周年記念事業の継続について

今年度を実施された「椋鳩十生誕120周年記念事業」については、来年度は予算計上はなされていない。単年度事業では、椋鳩十氏の功績等を県民に定着させることは難しいと考える。予算を伴わない範囲でも、例えば「8月10日（はとの日）」前後に、館内展示などを通じて、同氏の功績等を継続的に周知・啓発を図る取組を実施してほしい（提案）。

→ 「椋鳩十生誕120周年記念事業」については、本事業を通じて関係者や県内外の関係団体とのつながりを築くことができた。今後はこうした関係性を大切にしつつ、委員

からの提案も踏まえ、「8月10日（はとの日）」の取組について、予算が限られる中でも工夫しながら、実施していきたいと考えている。

---

## エ 図書館利用促進に係る学校との連携について

県立奄美図書館では、地域の学校への図書貸出や連携がスムーズに行われていると聞いている。奄美図書館及び県立図書館において、学校との連携や図書館利用の促進等について積極的に取り組んでいること等があれば教えてほしい。

→ 県立奄美図書館では、離島という特性から、学校の児童生徒に対して読書の空白地帯を作らないことを重視して運営している。

具体的には、県民週間（11月1日～1週間）に合わせて学校を訪問し、事前に各学校の教育方針やグランドデザインを確認したうえで、学校の読書活動に関連する提案や図書館が支援できる内容を調整している。この取り組みにより、学校側が奄美図書館の活用方法を改めて考える機会となっている。

また、貸出文庫制度も実施しており、大島地区の小中学校および県立学校等に対して、貸出冊数を150冊、貸出日数1年未満で実施している。令和7年度の実績は、大島本島内の小学校6校、中学校2校、その他2校の計10校、本島外では、小学校2校、中学校1校、その他3校の計6校で利用されている。

大島本島以外の学校との間に発生する配送料・返送料は奄美図書館が負担し、本島内は公用車で配送・回収を行う。貸出文庫の選書は、図書館職員が利用希望に合わせて選ぶ場合と、学校側が直接選ぶ場合の両方に対応している。

これらのきめ細やかなサービスにより、学校と奄美図書館との強固な連携が維持されていると考えている。

県立図書館は文化ゾーンの一部に位置しており、修学旅行生や、児童生徒の団体受け入れ等を積極的に行っている。また、職場体験学習や調べ学習についても対応してい

る。

市町村立図書館を通じて、学校向けに貸出文庫も実施しており、特に調べ学習で必要な学校の予算で購入できない高価な書籍を貸し出し、支援した例もある。

また、三島村立学校には学校図書館司書が未配置のため、当館の指導主事を派遣し、学校職員へ読書指導の在り方等に関する研修を行っている。高等学校向けには団体貸出を実施しており、今年度の実績は31件である。

これらの取組により、学校との連携や読書活動の支援を積極的に進めている。

---

## オ 城山ホテル鹿児島への外国人観光客向けの資料貸出状況について

県立図書館の取り組みとして、城山ホテル鹿児島に観光客向けの資料を貸し出している。鹿児島を訪れる外国人観光客にも資料を手にとってもらうため、英語、中国語、韓国語等の街の紹介パンフレットや図書を提供しているのか。

→ 城山ホテル鹿児島に提供する資料は、半期ごとに入れ替えながら約150冊をラウンジに配置し、利用者が閲覧できる形で貸し出している。サービス開始から1年が経過し、ホテルの担当者に利用状況を確認したところ、ラウンジ利用者の約2割が実際に資料に興味を持ち、閲覧しているとのことである。

利用者には外国観光客も含まれるが、現時点ではホテル側から外国人観光客向けの資料貸出の要望はない。

現状は鹿児島の歴史関係の図書を中心に貸し出しているが、今後要望があれば外国人観光客向けの資料提供も検討したい。

---

## カ 県立奄美図書館の市町村立図書館での公開講座等の取組について

奄美図書館が市町村立図書館をサテライト教室として活用し、奄美図書館に足を運べない利用者に情報提供を行っているとのこと。そこで、特に評判が高かった講座や取り組みについて教えてほしい。

→ オンライン配信については、約2年前に「あまみならでは学舎」による講座を瀬戸

内町にて配信した実績がある。しかし、今年度は相手方の配信環境等が整わず、オンライン配信は実施できなかった。今後も、図書館に来館できない利用者に対しては、オンラインに限らず、出向いて高齢者向け音読教室を実施するなど、積極的に進めていく予定である。

## (2) その他

### 西南戦争終結 150 年に係る企画展について

来年度は西南戦争から 150 年を迎える。城山が戦いの現場であったことも踏まえ、そのことも意識していただき、企画展等など、西南戦争に関連する取り組みをしていただけたらありがたい（提案）。

→ 令和 8 年度は昭和 100 年並びに戦後 80 年という節目を迎えることから、それらのテーマに沿った貴重資料紹介展を実施する予定である。さらに令和 9 年度には、西郷隆盛生誕 200 年、没後 150 年、並びに西南戦争終結 150 年にちなんだテーマで企画展等を検討しているところである。

県立奄美図書館においては、県立図書館と連携し、同様の企画展や関連する取り組みを実施することは検討していないのか。

→ 当館の場合、奄美に関連するテーマに特化した取り組みを実施している。両館で共有可能な部分があれば、今後連携して進めていきたいと考えている。